



知ればもっと旅が楽しい!

# 河内長野の歴史トリビア

歴史の数だけ、物語がある。河内長野市のむかしを紐解いてみれば、ちょっと面白いストーリーがいろいろ発掘されました。知ればきっと旅したくなる、豆知識はいかがですか?



## ノスタルジックな鉄道風景

**レンガの橋脚**  
広域マップ：b  
明治時代のレンガ積み橋脚は市内の各所で見られます。写真は現在の南海高野線を三日月橋から眺めた風景。写真中央にレンガの構造物が見えます。



河内長野市に鉄道が整備されたのは明治31年(1898年)。今の堺東駅から河内長野駅を結ぶ「高野鉄道」の開通が始まりました。その後、市内には駅舎が順々に設置されてきましたが、母体となる鉄道会社は経営不振や合併などで変遷をくり返し、昭和22年(1947年)に現在の南海電気鉄道が誕生しました。そんな河内長野市には、およそ120年の時間を経たず「鉄道の遺跡」が多く残されています。明治時代に造られたレンガ積みの橋脚があちこちで見られたり。廃線になった線路跡が遊歩道になっていたり。風情あふれるノスタルジックな鉄道風景も、この街を彩る魅力のひとつです。



## 本多忠統サクセスストーリー



**西代神楽** 広域マップ：C-1  
享保17年(1732年)、本多忠統が江戸幕府の命により、西代藩から神戸藩(現在の三重県鈴鹿市)に移ることになった時に、その徳をしのんで、西代神社に奉納されるようになったのが始まりと伝わっています。  
●所在地 西代町14-1 ●アクセス 河内長野駅より徒歩5分

「陣屋」とは、江戸時代に城を持たなかった小大名が領地内に持っていた政治の拠点のこと。河内長野に初めて陣屋を構えたのは、この地を治めていた西代藩の二代藩主、本多忠統です。彼は明晰な頭脳と優れた政治手腕で幕府の要職につき、異例の出世を上げました。若い頃から幕府に上がり、60歳で隠居するまで5人の将軍に仕えたという忠統。大名と将軍の連絡役「奏者番」や老中を支える「若年寄」などを務めたスーパーエリートです。特に八代将軍徳川吉宗の信任が厚く、享保の改革に力を尽くしました。わずか一万石の小大名ながら、歴史に名を残す名君が、河内長野にはいたのです。



## かつて天皇の御所があった!?

**金剛寺行在所跡** 広域マップ：B-2  
金剛寺跡の中にある後村上天皇の行在所。観心寺にも行在所はありましたが今は残っておらず、石碑が建てられています。  
●所在地 天野町996  
●電話 0721-52-2046  
●時間 9:00~16:30  
●入山料 大人200円  
●北朝行在所拝観料 大人400円  
●アクセス 天野山バス停より徒歩1分



また同時期に北朝の3上皇(光厳、光明、崇光)が、金剛寺の観蔵院に幽閉されました。北朝方の行在所もこの地にあったことになりました。

鎌倉幕府の滅亡後、朝廷が2つに分かれて争った南北朝時代。河内長野には南朝側を率いた後村上天皇の拠点が置かれていました。中世の一時期、ここには日本の首都があったのです。中心となっていたのが金剛寺と観心寺。天皇は北朝との戦いに備え、交通の要所として重要な場所にあった2つの寺を行宮(仮の御所)として、政治を執り行いました。正平9年(1354年)から6年間は金剛寺、そのあと10ヶ月間は観心寺が、行宮となりました。



## 人間国宝、秋山信子氏の人形

無形重要文化財保持者、いわゆる「人間国宝」の秋山信子氏をご存じですか? 秋山氏は河内長野在住の人形工芸作家。昭和3年(1928年)に大阪市に生まれ、20代で人形作りの道へ。その後、河内長野に拠点を移して、日本国内の祭礼行事やアジア、シルクロードなど各地の風俗をテーマに、数々の作品を生み出してこられました。現地での取材など丹念な資料調査にもとづき、繊細な工芸技法を駆使して創作された人形は、優しい表情と美しい佇まいが魅力。いつまでも眺めていたくなるような、瑞々しい生命感にあふれています。

**ラブリーホール/キックス** 広域マップ：C-1

秋山氏の作品が河内長野市文化会館「ラブリーホール」のロビーや河内長野市立市民交流センター「キックス」に展示されています。各館の開館時間内であれば見学は自由です。



**ラブリーホール**  
●所在地 西代町12-46  
●電話 0721-56-6100  
●閉館日 不定休  
●時間 9:00~22:00  
●アクセス ラブリーホールバス停・西代町南バス停より徒歩2分



**キックス**  
●所在地 昭栄町7-1  
●電話 0721-54-0001  
●閉館日 毎週月曜日、年末年始  
●時間 9:00~22:00  
●アクセス 市民交流センター前バス停より徒歩3分



## 「つまようじ」取り扱い量は日本一!

河内長野でつまようじの生産が始まったのは明治時代。もともとはつまようじの原木である「黒文字」「卯木」を山林から切り出して売っていましたが、明治16年(1883年)頃には職人を河内長野に招いて製造も行うようになりました。その後、稲葉由太郎氏が河内長野につまようじ会社を設立し、日本初の機械生産に踏み切ったのです。その高い品質が認められ、河内長野のつまようじは日本だけでなく海外へも輸出されるように。現在でも河内長野のつまようじ企業が生産する量は、日本国内でも大きなシェアを誇っています。

**つまようじ資料室** 広域マップ：C-2

(株)広栄社の敷地内にある資料館。つまようじの歴史から製造工程、世界のユニークな楊枝まで見ごたえ十分。広栄社の前身は稲葉由太郎氏創業の「東洋妻楊枝」です。



●所在地 上原町885(株)広栄社内  
●電話 0721-52-2901  
●開室日 毎週土曜日 ※要予約  
●時間 10:00~16:00  
入室は15:00まで(12:00~13:00は休憩)  
●料金 無料  
●アクセス 長野車庫バス停より徒歩3分